

令和6年度 深草小学校における「学年（チーム）担任制」実施について

京都市では、複数の教員で担任業務を担う「チーム担任制」を、令和5年度より京都市立小学校20校で導入しています。「チーム担任制」とは、学級担任を固定せず、学級における児童の指導や保護者対応、事務処理等の業務を学年の複数の教員が担当する実施形態です。本校におきましても、令和5年度からチーム担任制を導入しました。昨年度は、3年・5年の2学年にチーム担任制を導入し、担任固定の形態での「チーム担任制」を実施しました。

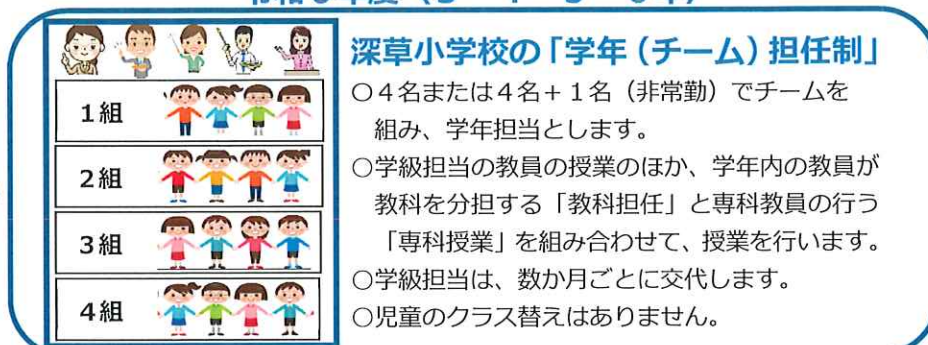
令和6年度は、3～6年生において担任は固定せず、学年の教員4名または5名でチームを組み、学級の担当者を数か月ごとに交代して担当します。

令和5年度（3・5年）



「担任固定チーム担任制」

令和6年度〈3・4・5・6年〉



「学年（チーム）担任制」

※実施形態は学年によって違いがありますので、詳細は令和6年4月10日配布、各学年の「学年だより」をご覧ください。

多様な関わりを生み、安心して過ごしやすい学校に！

★「学年（チーム）担任制」を実施することで、以下の効果を目指しています。

- 児童・保護者が相談できる教員が増えることになり、相談しやすくなることで学校への信頼感を高める。
- 複数の教員が多面的な視点で児童をみることで児童理解を深め、児童一人一人の良さを見つけやすくする。
- 複数の目があることで、児童の変化にも気づく機会が増え、早期かつ対応をスムーズに行うことができる。
- 教育活動や指導・学習環境の面で、学年での統一が図られることで、児童・保護者の安心感が高まる。
- 担任のローテーション・教科担任制により、学級間での指導上の差がなくなり、指導の透明性が高まる。
- 教員が連携・補完して学年運営をすることで、指導力の向上と組織力の向上を図ることができる。



◇ 従来の学級の運営方法は・・・

1人の先生が1つの学級の担任をし、1人の先生がほとんどの教科を教えていました。しかし、児童と担任の先生とうまく折り合いがつかなかった場合や、若い先生が担任をしている場合でも、「学年（チーム）担任制」を導入することで、1人の児童に複数の教員が関わることができるようになったり、若い先生とベテランの先生の経験の差をカバーしたりすることができ、児童（保護者）と教職員双方にメリットがあると考えています。これまでも、学年内で先生同士が連携していましたが、「学年（チーム）担任制」を導入する方が、複数の教員がさまざまな視点で児童をみることができ、多面的な理解と多様な関わりをすることができると考えています。

しかし、学級担当を交代する形態での「学年（チーム）担任制」は、今年度初めての実施となるため、メリットだけではなく、課題となることも想定されます。

■ 想定される課題 ■

■ どの教職員に相談したら良いかわかりづらくならないか？

→児童や保護者の皆様からの相談は、相談時にその学級を担当している教員だけではなく、学年を担当する4人または5名で対応します。「〇〇先生」もしくは「〇年の先生」という形でお声がけください。ご相談内容については、学年内で共有させていただき、対応します。

■ 児童・保護者からの相談や依頼が、特定の教員に偏ることがあるのでは？

→相談や依頼が特定の教員に偏った場合、学年内で他の教員で対応させていただくことがあります。

学年（チーム）担任制に決まった形はなく、学校ごと、学年ごとに教員の配置数や実施形態は異なります。

京都市立小学校・義務教育学校（前期課程） 「チーム担任制」導入のお知らせ （本校でも、新しい取組を始めています）



京都市では、義務教育9年間の学習指導の充実に向けて、高学年中心に「教科担任制」を進めてきました。教科指導を分担することで、**授業改善**に加え、複数教員が学級に関わる中、**多面的な児童理解が進む**、といった効果が多く为学校から報告されています。

そして、一部の学校においては、教科担任制をさらに発展させ、**教科指導だけでなく**、毎日の朝の会や終わりの会、保護者懇談などの**学級担任業務も複数の教員で分担**する「**チーム担任制**」を導入しています。

若手教員やベテラン教員、育児等事情のある短時間勤務者、非常勤教員等、複数の教員が連携して担任を受け持ち、互いに協力し、強みを生かし補い合うなかで、学級運営や教科指導を進め、**子どもたちを多面的・多角的に見取り、よりきめ細かな指導を充実させていくこと**を目指しています。

チーム担任制の実施形態の一例（学校の規模等に応じて様々な実施方法が考えられます）

【同一学年内でのチーム担任制】

学年4クラスを、4人の教員と、1人の非常勤教員の計5名で担当。教科指導を分担するだけでなく、朝の会や終わりの会を含め、担任業務も5名で時間によって交代して分担する。

【2学年にまたがるチーム担任制】

「1、2年」、「3、4年」、「5、6年」という形で、2学年のまとまりを、それぞれ1つのチームとし、チーム担任制を実施。2学年にまたがって、複数教員で担任業務や教科指導を分担する。

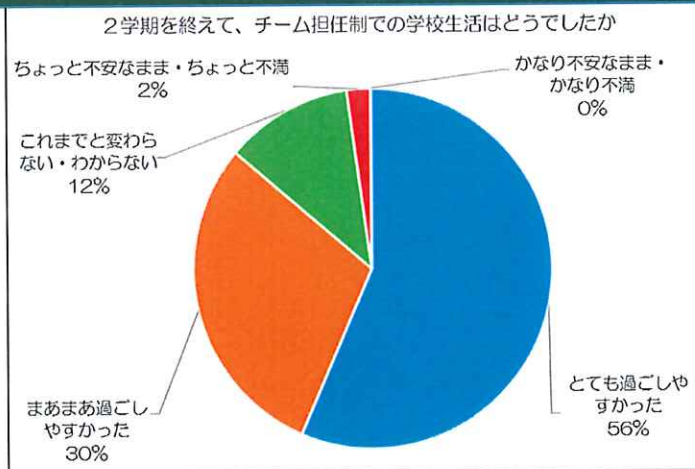
「チーム担任制」の良さは…（学級担任制や教科担任制と何が違うのか？）

- ①多くの教員が児童に関わることができる「たくさんの先生に見守ってもらえる」「話しやすい先生に相談できる」
- ②学級の枠を超えて、児童の学習状況や教育目標を踏まえた、柔軟な教育活動が実施しやすくなる
- ③担任の先生は一人ではなく、「チームの教員全員」複数の教員が連携し、強みを生かし補い合いながら子どもたちを育てていくことができる。

Q. これまでのような担任の先生への相談は、誰にどうしたらよいでしょうか？

A. 学年を担当する教員が担当します。相談の情報はチーム内で共有させていただき、対応していきます。

以下は、既にチーム担任制を実施している小学校での2学期終了時の児童アンケート結果です。



《実施校での分析結果》

2学期のアンケート結果から、チーム担任制の機能と効果が安定してきたことが見えてきた。

しかし、学級担任制であってもチーム担任制であっても、不安や不満をもちながら学校生活を送っている児童はいる。

今後も、チーム担任制の強みである、「多くの教員からの様々な声かけと関わり」を進めていきたい。

京都市立学校では、これまでから、小中一貫教育や開かれた学校づくり等、子どもたちの学習指導をより充実させていくための工夫・改善を進めてきました。

★全ての小・中・義務教育学校で小中一貫教育を実施！

★全校で学校運営協議会を設置し、学校支援活動や学校評価活動を実施！

今後も、子どもたちの可能性を広げるための様々な工夫を進め、新しい時代にふさわしい教育の実現を目指していきます。